



国土交通省鉄道局長賞



わたらせ渓谷鐵道 上神梅駅

「聖なる夜の無人駅」 保坂美枝（群馬県）

スノーマンを見張りに立てて
サンタクロースがスイッチを入れた
古びた木造駅舎で明滅する
クリスマスイルミネーション
立て付けの悪いガラス戸が
遠慮がちにガタガタとリズムをとると
ステップを踏むように傾くラッチ
無人駅の聖夜は静かに更けていく

鉄博賞



土佐くろしお鉄道 阿佐線 西分・夜須間

「波音と鉄路のシンフォニー」 成田美香（東京都）

高台の窓から遠く広がる青
一両の列車が静かに揺れる
手前の波が静かに揺れる
音の間に列車の音の波が
遠くから聞こえるはずの
胸の奥で響き渡る波音が
その奥に溶け込んでいく
海と鉄路が織りなす調和
この風景に包まれるように
時を忘れながら心満たされ

鉄道写真詩とは

鉄道写真詩とは、「鉄道写真」に「詩」を組み合わせる鉄道の魅力や旅情を表現する芸術活動です。
いつもの鉄道、旅先での鉄道、その時々にとらえた鉄道の表情とともに作者の心情が伝わってきます。

エコトラン賞



JR予土線 土佐大正・土佐昭和間

「予土線の旅」 武吉孝夫（高知県）

稲穂の色行く町から
栗と椎茸の村を西に向かう
県境を越えると
温暖なみかん畑に出た
河内晩柑と温州蜜柑を
重いほど買ひこんで
じやこ天と鯛飯を食べた
いつもは車の日帰り旅だが
のんびり鈍行の列車旅
見えないものが見えてきて
聞こえないものが聞こえてくる
ゆるやかに流れるソウルの一日だった
予土線のたかだか八十キロメートルに
ご当地の味を味わう面白さ
旅先の食にはもてる
特別な記念日でもなくとも
日々の暮らしに張りつけて
風の流れを変えてみる

エコトラン賞



小湊鐵道 養老溪谷・上総大久保間

「祈りの灯り」 南 輝明（神奈川県）

夜空に浮かぶ燈會の光
その想いが夜を照らす
静寂を分け入る列車の音
その響きが行く先を示す
燈會は祈りの声が空に届くように
列車は復興への希望が繋がるように
ふたつの灯りが交わり溶ける
夜空と大地を結んだ旅路は
はるかな未来へと続いている

エコトラン賞



京浜急行電鉄 久里浜線 三崎口駅付近

「遠くの君も」 佐々木康光（神奈川県）

君は仰いでいるだろうか。
徹しい寒風にさらされても
堂々と聳える富士の山を
君は眺めているだろうか。
自らの美を誇るかのよう
澄んだ空を彩る望月を。
遠く離れて暮らしても
心がつながれ思いを託す。
思いを受け止めて
鉄路の鼓動がこたえた。

講評

◇ 米屋こうじ Yoneya Koji
鉄道写真家

鉄道写真詩コンテストは、回を重ねる度に
作品がレベルアップしているのを実感しま
すが、今年は特に写真において優秀な作品
が多いと感じました。

一般的な写真コンテストで上位に入賞し
そうな作品が多数見受けられるなか、私が
選んだ河内優さんの「映る」は、引退迫るド
クターイエローを写した作品。高速で走る
新幹線を、標準レンズ域の画角で、この位置
に写し止めるのはかなり難儀なこと。加えて
カーブミラーへの映り込みを絶妙に捉えた
ところに、技術の高さと着眼点の良さを評価しました。詩では、走行
音を「ヒュンヒュンヒュン」と表現するなど、流れるようなスピード感や
ドキドキ感が伝わってきました。

河内さんの躍動ある作品と対照的に、「写真から静けさや温もりが
伝わってくるのが、舞台劇を思わせるような詩も魅力的な、保坂美
枝さんの「聖なる夜の無人駅」（国土交通省鉄道局長賞）。折しも、被
写体となった上神梅駅は、地元の有志が歴史ある駅舎を整備する
活動をスタートさせています。成田美香さんの「波音と鉄路のシン
フォニー」（鉄博賞）は、充足感に包まれた時間が詠まれた詩が、淡
いトーンの写真と小気味良くマッチしています。

◇ 水無田気流 Minashita Kiru
詩人・社会学者

今年で8回を迎える鉄道写真詩コンテ
ストは、例年以上に凝った鉄道写真が散
見されました。鉄道の速度、光、空や周囲
の風景、さらには人々などとそこに合わせ
る言葉をどのように切り取るのかはまさに
このコンテストの中核となる部分ですが、
これまで以上に多様で魅力的な含意に富
む写真に感じしつつも、詩とのバランスに
悩まながらの選考となりました。

今回私が選出させていただいた恵良雅
之さんの「六花」は、タイトルも雪の雅風な
異名を一単語置いて、大湊線陸奥横浜駅
構内の雪の舞う中、気動車のヘッドライト
の光線が降雪の静寂を引き立て、筆者の心の内奥を綴るモノ
ログのように、久しぶりに会う「君」へかける言葉が探られていき
ます。三連構成のシンプルな散文調の詩ですが、初連、二連で冒頭
「君が帰ってくる」がリフレインされ筆者の緊張感が淡々と表現され
た後、終連は通常の文法では3行目に入るところをあえて転倒させ
て末尾に持ってきたことで、シンプルな明喻が活きています。

国土交通省鉄道局長賞「聖なる夜の無人駅」と鉄博賞「波音と鉄
路のシンフォニー」は、写真の素晴らしいに比して若干言葉による
説明が過剰な印象を受けましたが、鉄道のある情景に関してはつ
い饒舌になりがちというこの証左かもしれません。

「詠み鉄」の皆さま、今年も誠にありがとうございました。来年も、
皆さまの作品を楽しみにお待ちしております。

「映る」 河内 優 (愛知県)

最後の夏
雲行き怪しげな空の下
ヒュンヒュンヒュンヒュン
風を切つて走る音が近づいてくる
姿は見えずとも音は聞こえ
君は突然現れた
ヒュインヒュインと現れた
黄色い姿が現れた
一瞬映り込んだその姿
カッコ良さすぎた
見逃さなかつたその姿
鏡越しの君を思い出し
遠い記憶となろうとも
思い出し姿を思い出す

JR東海道新幹線 三河安城・名古屋間

「六花」 惠良雅之（東京都）

君が帰る人づてに雪の中
かいたるで
私一人集めた待ちの
会いた言つた葉のか
社会な月並みなる葉
こそ空白は埋められ
この月日は待たるよ
うか

へ鼓動はイと光ともに
胸のありまどえよう
久し振りの日と笑う
あふれるまでえんか
私一人のまじえるか

スヤッ緩やかに降り
今日はゆっくりと列車
今はかきおろした止
まれば冷める言ひな
まじりてなかる寒さ
うしろ声でしよう

JR大湊線 陸奥横浜駅

JR函館本線 小樽市旭展望台